草の繁みにはツユムシなども隠れている。畑の低木叢中からは「ジャジャ」というウグイスの地鳴きも聞こえてくる。

登山道入口の立札から急に道は細くなる。登山道の右手は長い間放置されていた耕作地で、萩があたかも植え込まれたように、一面に生えている。アキアカネなどアカネ類の群飛が見事である。その間を縫うようにヒョウモンチョウの仲間やクジャクチョウが飛ぶ。

低木の間に混じるススキの葉陰からは、キリギリスの声も聞こえてくる。

登山路の左手はクリ、コナラなどの雑木林

ホオジロ

となり、エナガの小群、カケスの濁った声、ヒヨドリの甲高い声なども聞かれる。

時々低木の根元でカサコソと音がする、南向きの日当りのよい場所なので、日向ぼっこをしていたカナヘビが、我々を見てあわてて逃げ込む音である。ヘビもいる１ｍ以上もあると思われるアオダイショウが、これは音も立てずに繁みの中へもぐりこんでいった。

ハギの群落を通りこすと道は次第に急坂となる。下を見下すと谷の南斜面は丸坊主に伐採された草地である。対岸の北斜面は川岸に若干低木を残し、杉の植林が連なっている。

登山路右の伐採地はかなり上部まで及んでいるが、途中にやや年を経た杉が二三本取り残されたように生えているところに水場がある。

水場の周辺にはハギやススキなどが疎生し、サワギキョウ、アケボノソウ、シダ類などの生育するところとなっている。水場といっても地下から浸み出る直径50cm程の小さな水溜りである。水を透してよく見ると、こんな所にもサンショウウオが棲んでいる。落葉の上に動かないでいるのは薄茶色のまだエラの残るカスミサンショウウオの幼生である。

水の中に手を入れると、あたふたと枯葉の